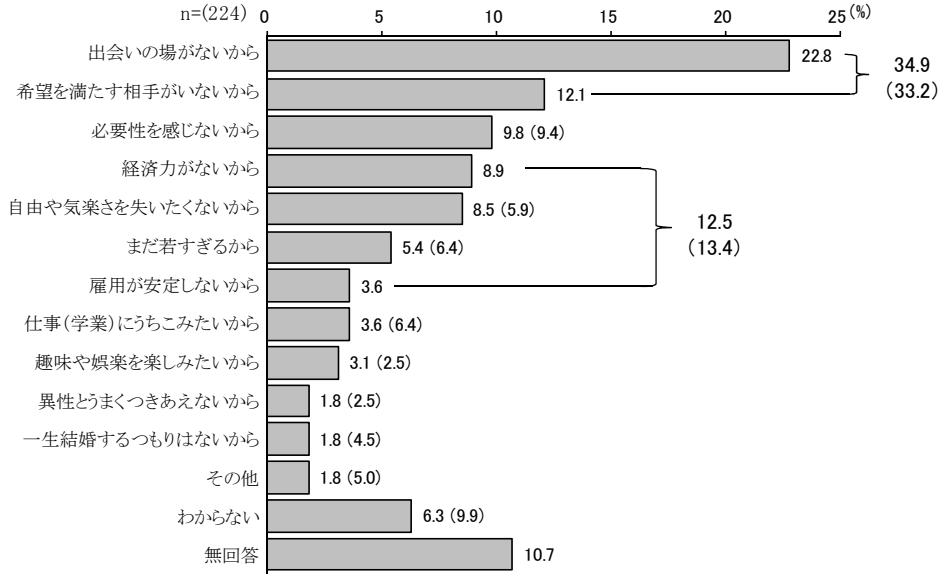
Ⅳ　少子化対策

１．結婚しない理由

－「出会いの場がないから」が２割超－

問１１　少子化の最大の原因は結婚しない方の増加であると言われていることから，個人の結婚に対する意識の変化を把握する必要があると考えています。そこで，（独身の方（婚約中の方，離別又は死別された方を除く。）にお伺いします）。現在，あなたが独身である理由は何ですか。次の中から，あてはまるものを１つだけ選んでください。



※(　　)内の数値は，平成21年の調査結果
※「出会いの場がないから」と「希望を満たす相手がいないから」は，平成21年では「適当な相手にめぐりあわない」。
※「経済力がないから」と「雇用が安定しないから」は，平成21年では「経済力がない」。
※「わからない」は，平成21年では「わからない・無回答」。

現在独身の方に，結婚しない理由を聞いたところ，「出会いの場がないから」（22.8%）が２割を超えて最も高く，次いで，「希望を満たす相手がいないから」（12.1%）が１割台で続いている。

－特に大きな増減はない－

前回調査（平成21年）と比べると，特に大きな増減はみられない。

※　前回調査の「適当な相手にめぐりあわない」は今回調査の「出会いの場がないから」と「希望を満たす相手がいないから」を合わせて，また，前回調査の「経済力がない」は今回調査の「経済力がないから」と「雇用が安定しないから」を合わせて比較した。

－県西で「出会いの場がないから」が３割台半ば－

地域別でみると，「出会いの場がないから」は，県西（33.3%）で３割台半ばと最も高くなっている。

－女性で「必要性を感じないから」が男性よりも約６ポイント高い－

性別でみると，「必要性を感じないから」は，女性（13.6%）が男性（7.4%）よりも約６ポイント高くなっている。一方，「経済力がないから」は，男性（11.0%）が女性（5.7%）よりも約５ポイント高くなっている。

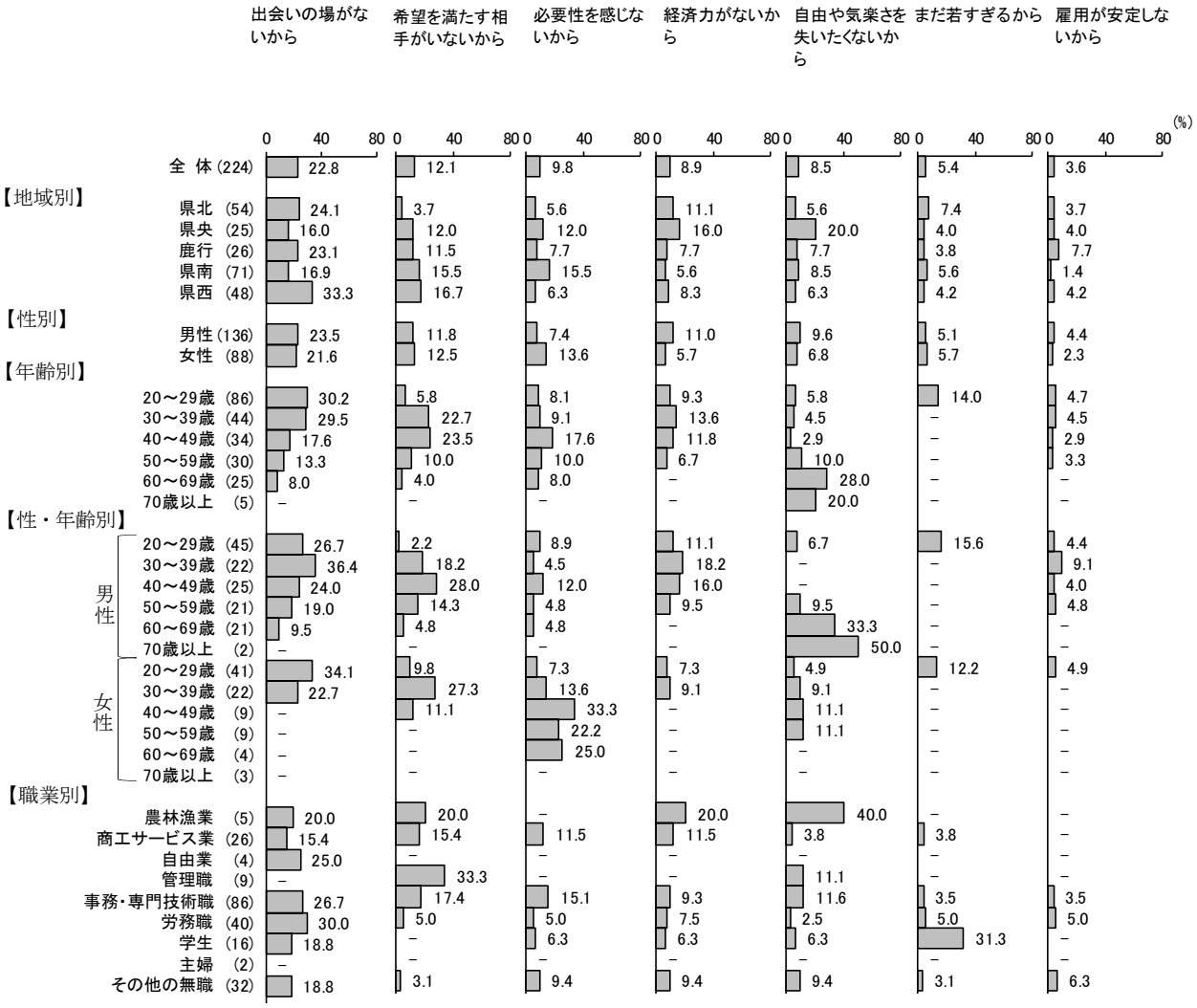
－男性の30代と女性の20代で「出会いの場がないから」が３割台半ば－

性・年齢別でみると，「出会いの場がないから」は，男性の30代（36.4%）と女性の20代(34.1%)で３割台半ばと高くなっている。

－労務職で「出会いの場がないから」が３割－

職業別でみると，「出会いの場がないから」は，労務職（30.0%）で３割と最も高くなっている。

表Ⅳ　１１－１　結婚しない理由
（地域別，性別，年齢別，性・年齢別，職業別－上位７項目）



（注）回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

表Ⅳ　１１－２　結婚しない理由
（前回調査との比較－上位５項目）

（単位：%）

	１位	２位	３位	４位	５位
今回調査（H26） n=224	出会いの場がないから 22.8	希望を満たす相手がいないから 12.1	必要性を感じないから 9.8	経済力がないから 8.9	自由や気楽さを失いたくないから 8.5
前回調査（H21） n=202	適当な相手にめぐりあわない 33.2	経済力がないから 13.4	必要性を感じないから 9.4	まだ若すぎるから／仕事（学業）にうちこみたいから 6.4	

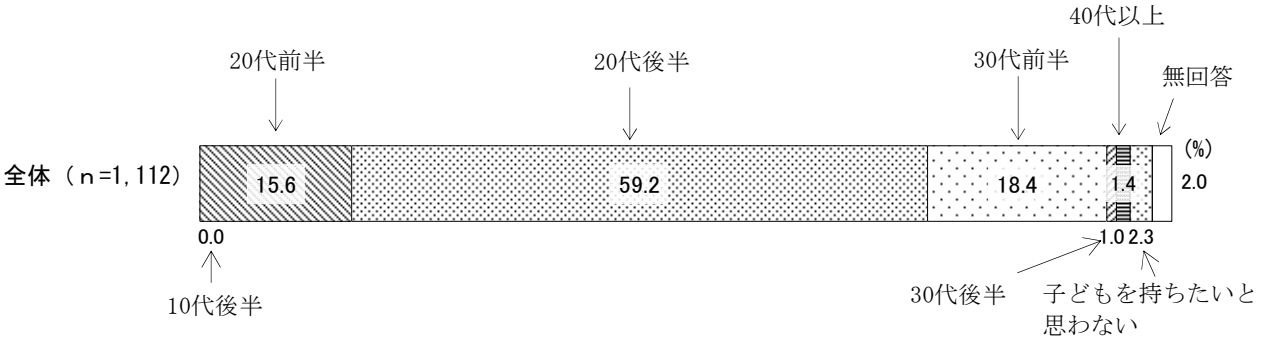
※「出会いの場がないから」と「希望を満たす相手がいないから」は，平成21年では「適当な相手にめぐりあわない」に相当。

２．子どもを持つ年齢

（１）第１子を望む年齢

－「20代後半」が約６割－

問１２　第１子を産む（男性の方は第１子が誕生する）のに望ましいと思う，ご自分の年齢（実際に第１子が誕生した年齢ではありません。）は何歳ですか。次の中から，あてはまるものを１つだけ選んでください。



第１子を産むのに望ましい自分の年齢としては，「20代後半」（59.2%）が約６割と最も高く，次いで，「30代前半」（18.4%），「20代前半」（15.6%）が１割台で続いている。

－県北で「20代後半」が６割台半ば－

地域別でみると，「20代後半」は，県北(63.8%)で６割台半ばと最も高くなっている。

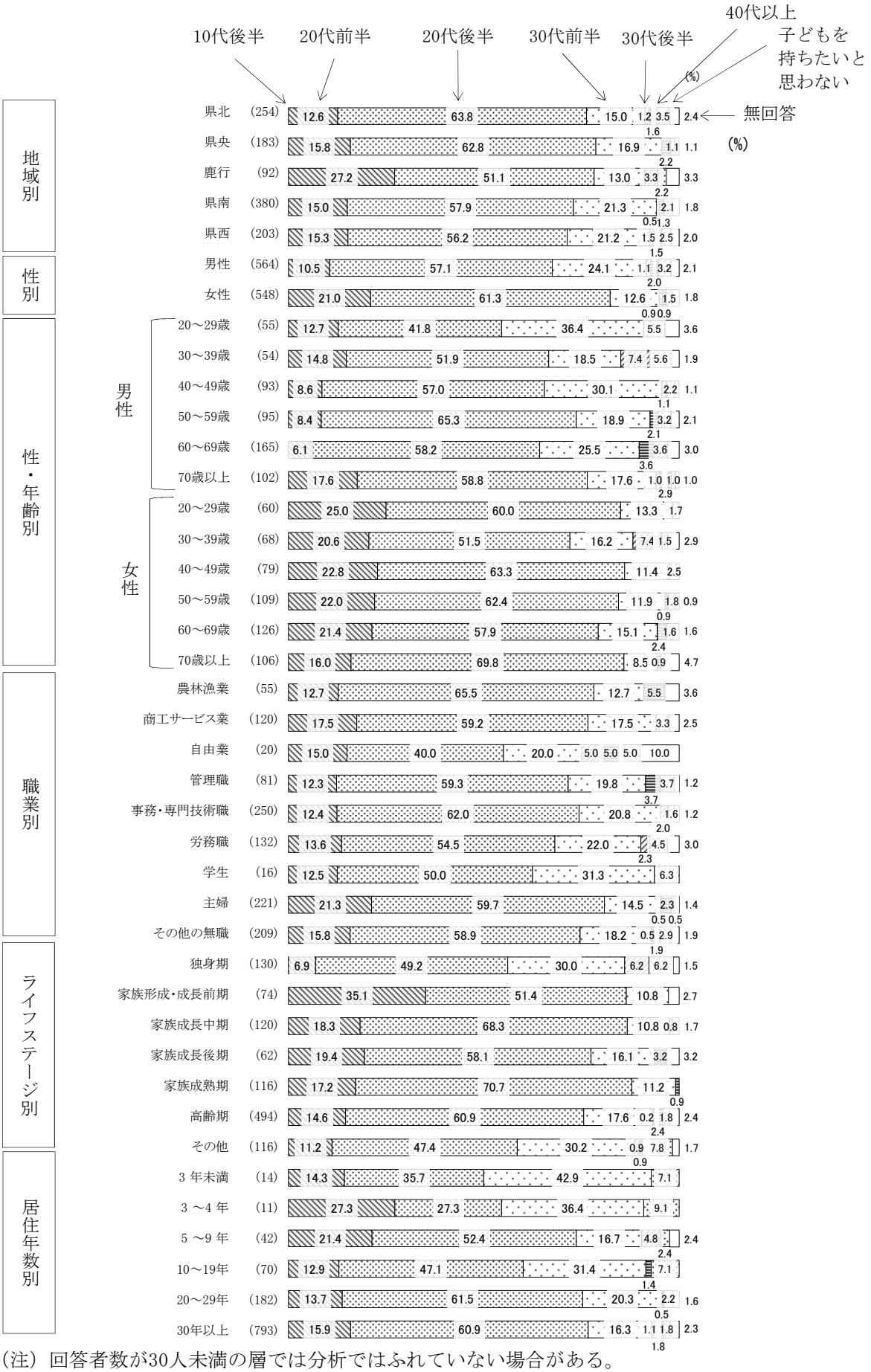
－男性で「30代前半」が女性よりも約12ポイント高い－

性別でみると，「30代前半」は，男性(24.1%)が女性(12.6%)よりも約12ポイント高くなっている。一方，「20代前半」は，女性(21.0%)が男性（10.5%）よりも約11ポイント高くなっている。

－女性の70歳以上で「20代後半」が約７割－

性・年齢別でみると，「20代後半」は，女性の70歳以上（69.8%）で約７割と最も高くなっている。

図Ⅳ　１２－１　第１子を望む年齢
（地域別，性別，性・年齢別，職業別，ライフステージ別，居住年数別）

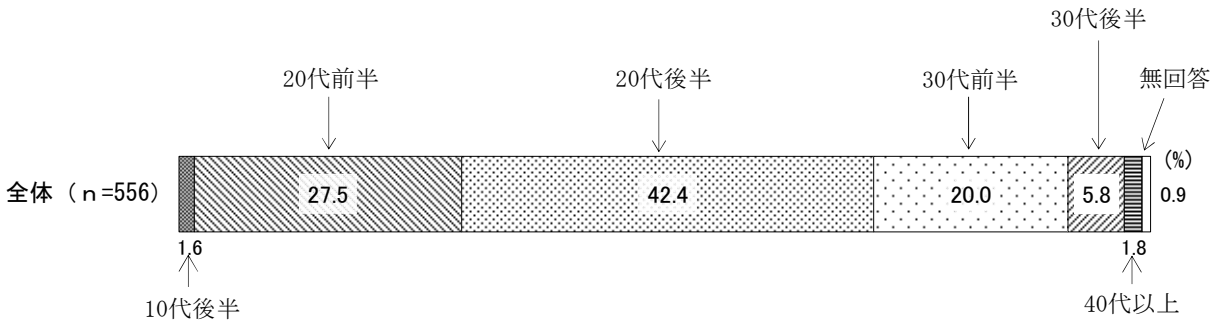


（注）回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

（２）第１子を持った年齢

－「20代後半」が４割超－

問１３　（お子さんをお持ちの方にお伺いします。）実際に第１子が生まれた時のご自分の年齢は何歳ですか。次の中から，あてはまるものを１つだけ選んでください。



子どもがいる方に，実際に第１子が生まれた時の自分の年齢を聞いたところ，「20代後半」(42.4%)が４割を超えて最も高く，次いで，「20代前半」（27.5%），「30代前半」（20.0%）が２割台で続いている。

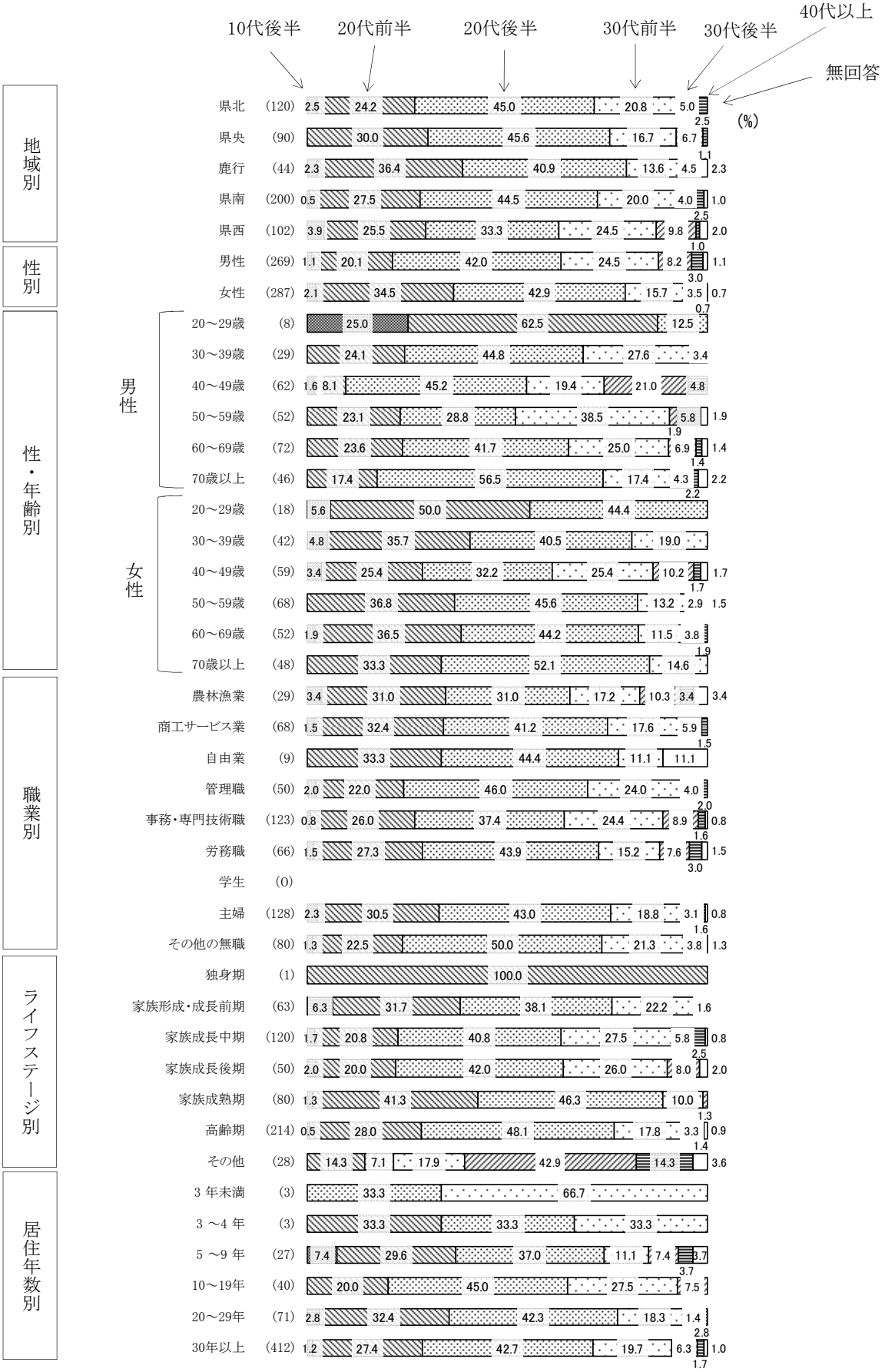
－鹿行で「20代前半」が３割台半ば－

地域別でみると，「20代前半」は，鹿行(36.4%)で３割台半ばと最も高くなっている。

－女性で「20代前半」が男性よりも約14ポイント高い－

性別でみると，「20代前半」は，女性（34.5%）が男性（20.1%）よりも約14ポイント高くなっている。一方，「30代前半」は，男性(24.5%)が女性(15.7%)よりも約９ポイント高くなっている。

図Ⅳ　１３－１　第１子を持った年齢
（地域別，性別，性・年齢別，職業別，ライフステージ別，居住年数別）

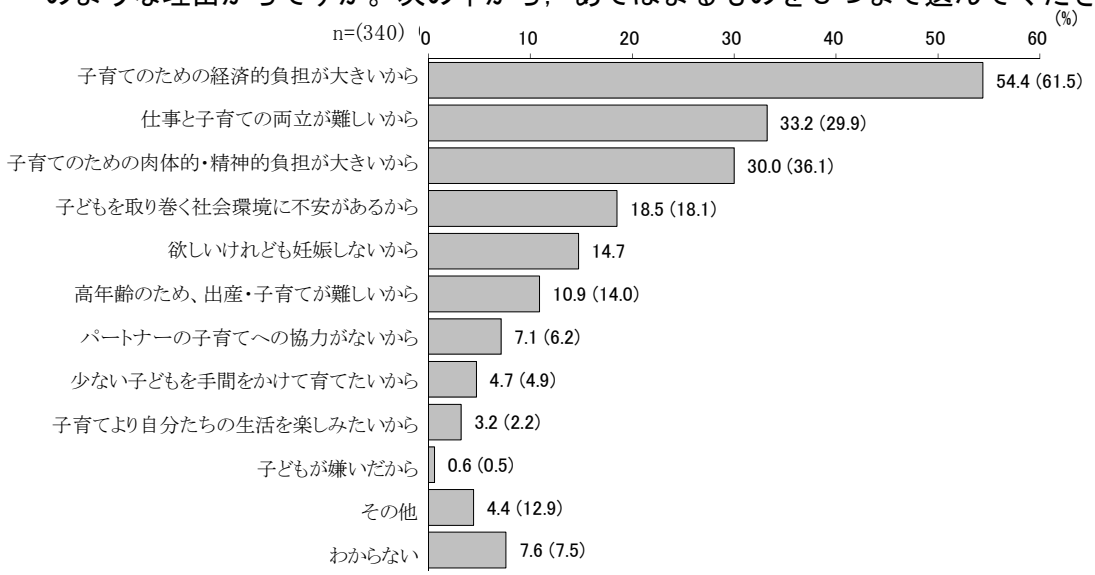


（注）回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

（３）理想の数の子どもを持てない（予定しない）理由

－「子育てのための経済的負担が大きいから」が５割台半ば－

問１４　（理想のお子さんの数よりも，実際の（または予定している）お子さんの数の方が少ない方にお伺いします。）理想の数のお子さんを持てない（または予定しない）のは，どのような理由からですか。次の中から，あてはまるものを３つまで選んでください。



※(　　)内の数値は,平成21年の調査結果
※「欲しいけれども妊娠しないから」は，平成21年では選択肢になし。
※「パートナーの子育てへの協力がないから」は，平成21年では「夫の子育てへの協力がないから」。
※「わからない」は，平成21年では「わからない・無回答」。

理想の数の子どもを持てない理由について，理想の子どもの数よりも実際の（または予定している）子どもの数が少ない方に聞いたところ，「子育てのための経済的負担が大きいから」（54.4%）が５割台半ばと最も高くなっている。次いで，「仕事と子育ての両立が難しいから」（33.2%）と「子育てのための肉体的・精神的負担が大きいから」（30.0%）が３割台で続いている。

－「子育てのための経済的負担が大きいから」が約７ポイント減少－

前回調査（平成21年）と比べると，「子育てのための経済的負担が大きいから」が約７ポイント減少している。

－県央で「子育てのための経済的負担が大きいから」が７割超－

地域別でみると，「子育てのための経済的負担が大きいから」は，県央(71.4%)で７割を超えて最も高くなっている。

－鹿行で「仕事と子育ての両立が難しいから」が４割超－

地域別でみると，「仕事と子育ての両立が難しいから」は，鹿行（42.1%）で４割を超えて最も高くなっている。

－男性で「子育てのための経済的負担が大きいから」が女性よりも約11ポイント高い－

性別でみると，「子育てのための経済的負担が大きいから」は，男性（60.1%）が女性（49.2%）よりも約11ポイント高くなっている。

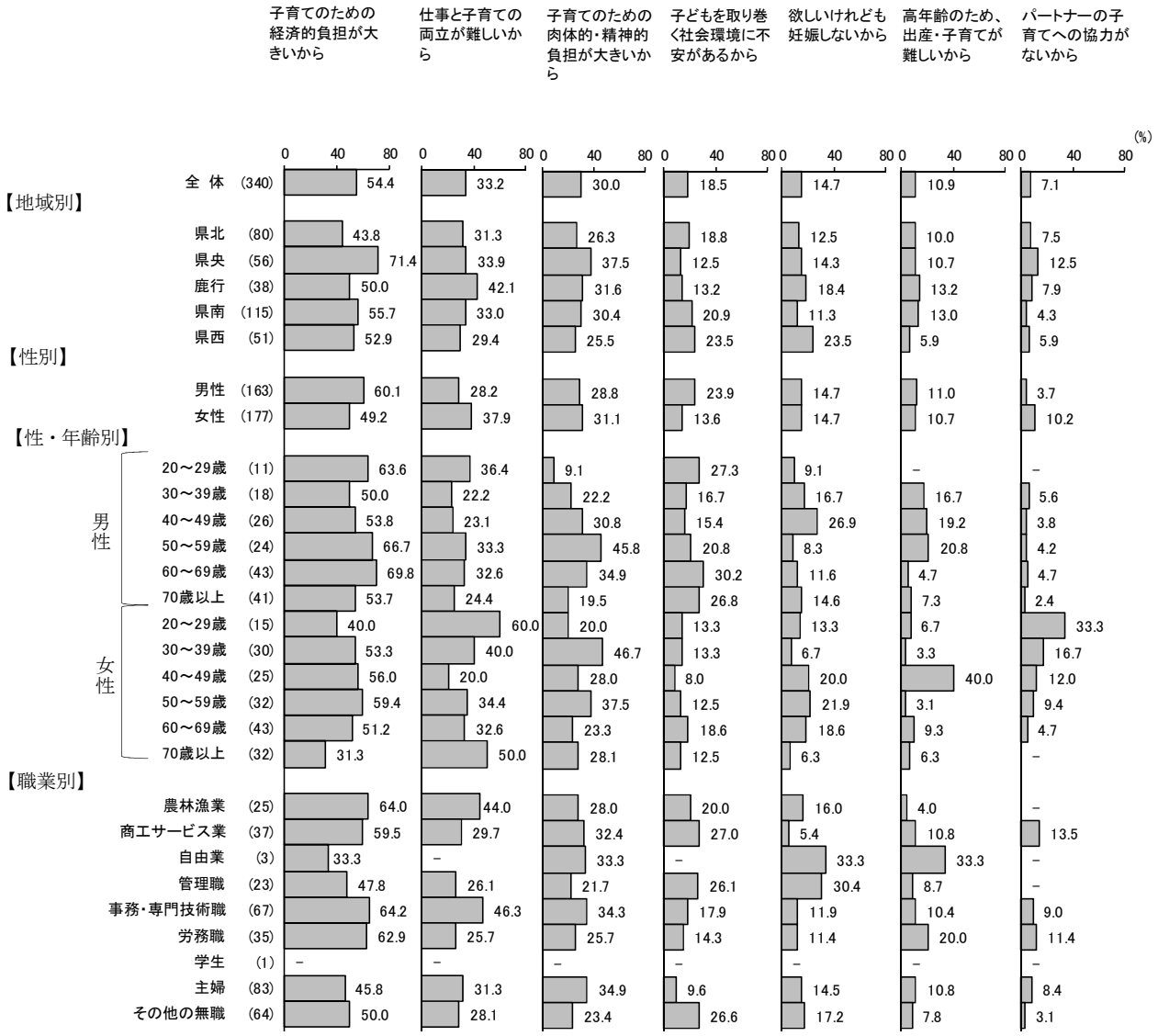
－女性で「仕事と子育ての両立が難しいから」が男性よりも約10ポイント高い－

性別でみると，「仕事と子育ての両立が難しいから」は，女性（37.9%）が男性（28.2%）よりも約10ポイント高くなっている。特に女性の20代（60.0%）で６割と高くなっている。

－男性の50代と60代で「子育てのための経済的負担が大きいから」が６割台後半－

性・年齢別でみると，「子育てのための経済的負担が大きいから」は，男性の50代(66.7%)と60代（69.8%）で６割台後半と高くなっている。

図Ⅳ　１４－１　理想の数の子どもを持てない（予定しない）理由
（地域別，性別，性・年齢別，職業別－上位７項目）



（注）回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

図Ⅳ　１４－２　理想の数の子どもを持てない（予定しない）理由
（前回調査との比較－上位５項目）

（単位：%）

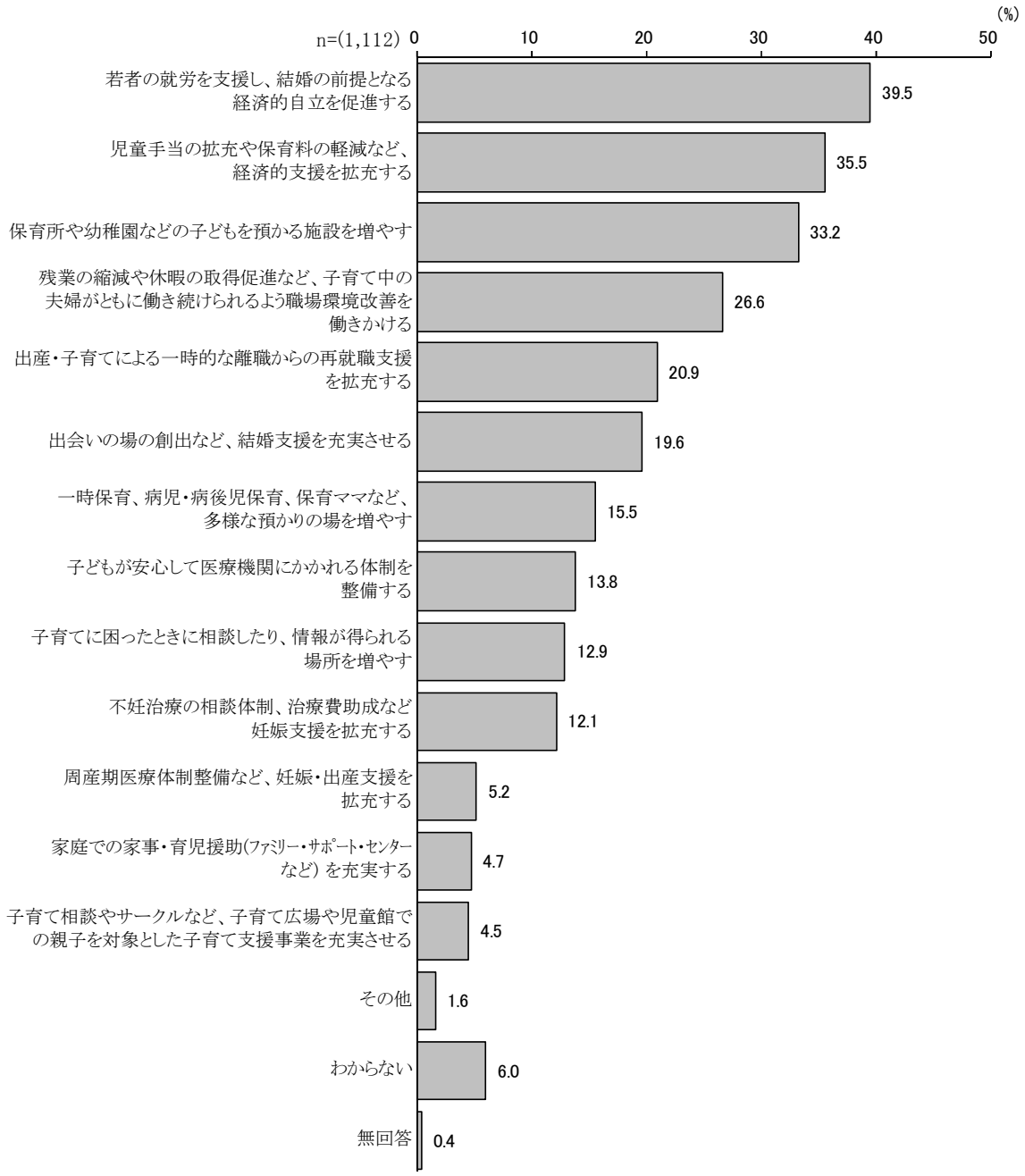
	１位	２位	３位	４位	５位
今回調査（H26） n=340	子育てのための経済的負担が大きいから 54.4	仕事と子育ての両立が難しいから 33.2	子育てのための肉体的・精神的負担が大きいから 30.0	子どもを取り巻く社会環境に不安があるから 18.5	欲しいけれども妊娠しないから 14.7
前回調査（H21） n=371	子育てのための経済的負担が大きいから 61.5	子育てのための肉体的・精神的負担が大きいから 36.1	仕事と子育ての両立が難しいから 29.9	子どもを取り巻く社会環境に不安があるから 18.1	高年齢のため、出産・子育てが難しいから 14.0

※「欲しいけれども妊娠しないから」は，平成21年では選択肢になし。

３．少子化対策で今後力を入れてほしいこと

－「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」が約４割－

問１５　少子化対策として，今後どのような面に力を入れてほしいと思いますか。次の中から，あてはまるものを３つまで選んでください。



少子化対策として，今後力を入れてほしいこととしては，「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」(39.5%)が約４割と最も高く，次いで，「児童手当の拡充や保育料の軽減など，経済的支援を拡充する」(35.5%)，「保育所や幼稚園などの子どもを預かる施設を増やす」(33.2%)が３割台半ばで続いている。

－県西で「児童手当の拡充や保育料の軽減など，経済的支援を拡充する」が，県南で「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」が４割台半ば－

地域別でみると,「児童手当の拡充や保育料の軽減など，経済的支援を拡充する」は県西(45.8%)で,「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」は県南(45.3%)で，それぞれ４割台半ばと最も高くなっている。また,「保育所や幼稚園などの子どもを預かる施設を増やす」は，県南(39.7%)で約４割と最も高くなっている。

－女性で「残業の縮減や休暇の取得促進など，子育て中の夫婦がともに働き続けられるよう職場環境改善を働きかける」が男性よりも約５ポイント高い－

性別でみると,「残業の縮減や休暇の取得促進など，子育て中の夫婦がともに働き続けられるよう職場環境改善を働きかける」は，女性(29.2%)が男性(24.1%)よりも約５ポイント高くなっている。一方,「児童手当の拡充や保育料の軽減など，経済的支援を拡充する」は，男性(37.9%)が女性(33.0%)よりも約５ポイント高くなっている。

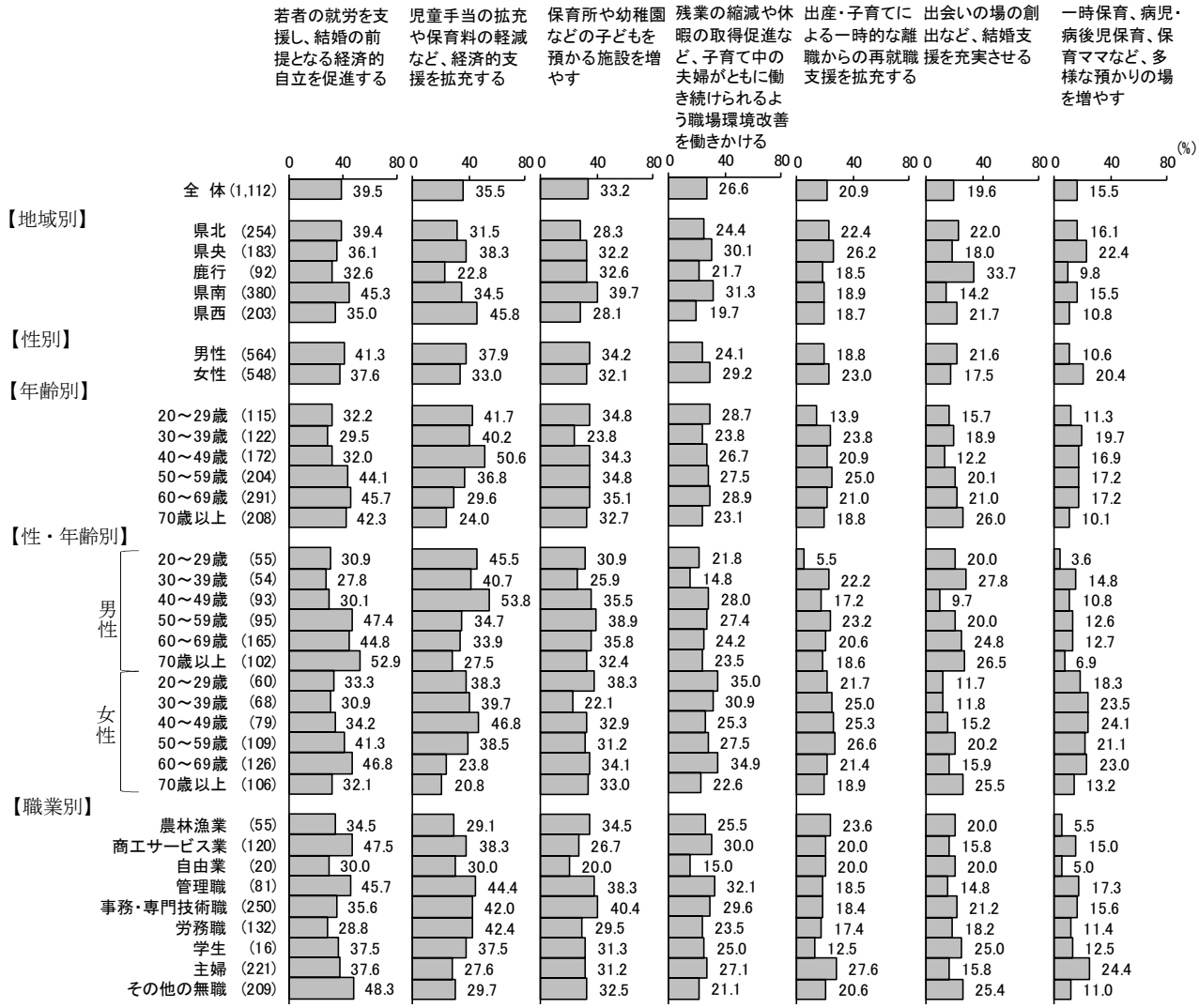
－40代で「児童手当の拡充や保育料の軽減など，経済的支援を拡充する」が約５割－

年齢別でみると,「児童手当の拡充や保育料の軽減など,経済的支援を拡充する」は,40代(50.6%)で約５割と最も高くなっている。

－その他の無職と商工サービス業で「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」が約５割－

職業別でみると,「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」は，その他の無職（48.3%）と商工サービス業（47.5%）で約５割と高くなっている。

図Ⅳ　１５－１　少子化対策で今後力を入れてほしいこと
（地域別，性別，年齢別，性・年齢別，職業別－上位７項目）



（注）回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

図Ⅳ　１５－２　少子化対策で今後力を入れてほしいこと
（前回調査との比較－上位５項目）

（単位：％）

	１位	２位	３位	４位	５位
今回調査（H26） n=1,112	若者の就労を支援し、結婚の前提となる経済的自立を促進する 39.5	児童手当の拡充や保育料の軽減など、経済的支援を拡充する 35.5	保育所や幼稚園などの子どもを預かる施設を増やす 33.2	残業の縮減や休暇の取得促進など、子育て中の夫婦がともに働き続けられるよう職場環境改善を働きかける 26.6	出産・子育てによる一時的な離職からの再就職支援を拡充する 20.9
前回調査（H21） n=1,110	児童手当の拡充や保育料の軽減など、経済的支援を拡充する 46.1	保育所や幼稚園などの子どもを預かる施設を増やす 39.1	安心して医療機関にかかれる体制を整備する 30.5	子育てに困ったときに相談したり、情報が得られる場所を増やす 22.8	残業の縮減や休暇の取得促進など、企業に対し職場環境改善を働きかける 20.8

※「若者の就労を支援し，結婚の前提となる経済的自立を促進する」，「出産・子育てによる一時的な離職からの再就職支援を拡充する」は，平成 21 年では選択肢になし。

※「残業の縮減や休暇の取得促進など，子育て中の夫婦がともに働き続けられるよう職場環境改善を働きかける」は，平成 21 年では「残業の縮減や休暇の取得促進など，企業に対し職場環境改善を働きかける」。